

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち12～3月号で参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

プラチナ未来人財育成塾に参加して

七城中学校3年 隈部千代乃さん



私は以前から校外学習に興味があり、小学4年生の時に菊池市少年自然の家の「森の通学合宿」、六年生の時には東京で開催された「人権子どもサミット」に参加しました。昨年度も「プラチナ未来人財育成塾」に参加し、今年も「Zoomで全国の人の意見を聴いたり交流したりしたい」と思い、「2021夏期プラチナ未来人財育成塾@オンライン」に参加しました。

講義は4日間で、いろいろな分野のお話がありました。その中でも特に印象に残った2名の先生の講義について報告したいと思います。

1人目は、菊池康紀先生です。講義は、「考える力」を身に付け、自分のことを知り他人を知る方法を考えよう。システム思考で未来を考えよう。システム思考とは、全体の把握ができるかどうかを考えるとどうですか。講義を聴いて、段階を踏んで目的達成に至るための行動や考え、すなわち「フォアキャストティング」の考えもありますが、これからは未来のビジョンを決めて未来から現在へ遡って計画や実行をする「バックキャストティング」の考

えも必要だと学びました。そして、この考えが、いま世界で広められている「SDGs」につながるそうです。私は、これからのことを考えるときに、自分の住む菊池で自分ができそうな「SDGs」に取り組み、その行動や経験を通して地域や周囲の人のために貢献していきたいと思いました。

2人目は、江間有沙先生です。講義は、近年「人工知能（AI）」が私たちの生活や社会に浸透していることで、近い未来、人間の仕事が多くなったり、AIの発展によってAIが人間に対する差別や偏見などももたらすことが心配されるという事です。そのために私たちはどのようなスキルを身に付ければよいのか、ということについてお話しされました。講義を聴いて、今の社会で実際にAIが原因で差別や偏見にあっている人がいることに驚いたと同時に、その原因を人間自身がつくり出していることにさらに驚きました。そこで、グループワークで個別にできること、社会全体でできることを考えていきました。個人でできることは、AIに頼りすぎないこと

と、AIについての知識を一人一人が身につけることです。私は、AIに頼りすぎていると、いざ逆らえなくなってしまうたり、今まで人間ができていたことができなくなったりするのではないかと思いました。次に、社会全体では、AIはあくまでも人をサポートするためのものだということを理解し、社会でも、AIに頼りすぎないことが大切になってくると思います。この問題がクリアできれば、将来は安全な自動運転の実現やドローンなどを利用した運送業の発展など、人間とAIがうまく共存する社会が実現できるのではないかと感じました。

今回の参加によって、新しい発見があったとともに、まだ知らないことも多く、他の塾生との考え方の違いや、自分の視野の狭さにも気づきました。また、Zoomを通して全国のたくさんの方と意見を共有できたことで、考える力を身につけることができました。

このような貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝しています。これからは、広い視野で物事を考え、実践していきたいと思っています。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち12～3月号で参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

自分の「当たり前」を見直していきたい

菊池南中学校2年 平山藍々花さん



私は、昨年8月10日から13日の計4日間、「プラチナ未来人財育成塾@オンライン」に参加しました。最初は、参加者の方にはどのような人がいるのだろうかという不安や、オンラインでの開催ということもあり、うまく講義や話し合いに参加できるかという心配がありました。しかし、いざ参加してみると、そのような不安や心配のことはすぐに忘れられるほど充実した時間を過ごすことができました。何より、私に無い考えを色々持っている人がたくさんいてとても楽しかったです。同じ中学生やチューターの大学生の方など意見交換をする場面では、オンラインでありながら一人一人の意見をしっかりと聞き取り、共感し合いながら話し合いができたと思います。普段話したことのない人の意見や考え方を聞き、私とは違う考え方がたくさんあることが分かり、視野を広げることができました。

今回は、私の心に一番残った講話についてお話ししたいと思います。それは、山極壽一先生の「あまのじやくな考え方について」です。山極先生は、日本を代表する人類学者で、

人類学・生態環境生物学を専門にしておられます。特に、ゴリラの研究については日本の第一人者で、研究のため野生のゴリラの間近で生活をしてきたこともあるそうです。みなさんは、人間はなぜ相手の目を見て話すのかを知っていますか？山極先生によると、ゴリラは顔を近づけて意思疎通を図るのに、人間は目を見て話します。その理由は、人間は相手の目を見て感情を読み取るからだそうです。

私は、このお話を聞いて、たしかにそうだなと思いました。相手の目を見ることは何となく大事だとはこれまで考えていましたが、そのことに対して、「なぜ」「どうして」などということとは考えたこともありませんでした。この一つの例だけでなく、今まで私は、身の回りにたくさんある「当たり前」に対して、「なぜ？」「どうして？」と客観的に考えることはとても少なかったと思います。しかし、山極先生のお話を聞いて、自分の中の「当たり前」を、客観的・否定的に捉え直すことで、新たな発見があり、相手の立場になって物事を考えることにも繋がる

のだと気付くことができました。つまり「あまのじやくな考え方」とは、物事の本質を見極めようとする姿勢や、身の回りで起きている出来事に対して一度立ち止まり、問いを持つということなのです。

私は、今回の研修を通して、持続可能なプラチナ社会を実現させるために、自分にもできることがあるのではないかと考えました。そのために、まずは、今までの考え方を見直して視野を広げる必要があると思います。普段の生活の中で、山極先生の講話から学んだ、自分の「当たり前」やこれまでの考え方にとらわれないこと大切にしていきたいと思えます。皆さんも是非、山極先生の「あまのじやくな考え方」で身の回りの出来事を眺めてみてください。きっと新しい発見があると思います。私は4日間の研修を通して、自分の見方が広がったことを嬉しく思います。

これから先も、様々な人に出会い、話しをすることがとても楽しみになりました。